

平成21年度 武生商業高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	授業の予習・復習に取り組むことで学習習慣の確立を図る。	△ 家庭での学習習慣の確立に取り組んだ結果、教員の目標指数は達成していた。しかし、生徒・保護者については、昨年と比較して僅かに向上したが目標指数を達成することができなかった。今後も継続的な取組が必要である。	担任・教科担任が連携し、生徒に対して家庭学習の必要性を粘り強く継続的に指導する。保護者に対しては、機会を見て家庭での学習の重要性を説明し、家庭との連携を図る。
	シラバス「年間学習指導計画」を活用し、目標を持って学習に取り組ませる。	△ 生徒・保護者とも目標指数を達成することができなかった。生徒・保護者に対して、シラバスの意義や内容について説明の必要がある。	生徒に対しては、授業等を通してシラバスの活用方法について説明し、年度中でも積極的に活用する。保護者に対しては、シラバスの意義や内容について機会を見て説明する。
2 生徒指導	家庭と連携して遅刻防止の指導を行い、基本的な生活習慣の確立を図る。	○ 生徒・保護者・教員とも、それぞれ目標指数は達成している。しかし、遅刻常習者への指導のさらなる充実が課題である。	個別指導ならびに担任・家庭とのさらなる連携により遅刻防止指導の充実を図る必要がある。
	頭髪・服装について全職員の協力と家庭との連携を図り指導を行い、ルール遵守の大切さを理解させる。	△ 生徒・保護者については、目標指数に達しているが、教員側の取組が目標指数に達していなかった。全教員で取り組む姿勢をつくりあげることが課題である。	全教員が取り組むことのできる重点指導項目を決め、年間を通して指導に当たる必要がある。
3 進路指導	生徒に対する各種の進路情報の内容や提供方法について、工夫と改善を進める。	△ 集会での進路情報提供、指定校の情報公開で工夫を行い、生徒の指標は向上したが目標値までには至っていない。目標値には達しているが、3年保護者の評価が昨年に比べ低くなった。	生徒・保護者に対し、3年間を通じた進路指導計画を周知徹底するとともに、進路状況を把握しながら学年に応じた情報提供に努め、進路より提供した情報が有効に活用されるよう継続して改善を進める。
	生徒・保護者対象の進路ガイダンス・進路説明会の充実を図るため、より効果的な内容と情報提供方法を検討する。	△ ガイダンス・説明会ともに学年会と協同し内容や実施方法について工夫と改善を進めた結果、生徒・保護者の評価は目標値に達した。しかし、教員の取組指標は昨年と比べ向上したが、目標値までは達しなかった。	学年会との連携により、学年段階に応じた進路説明会・ガイダンスの内容について引き続き検討を進め、より一層の充実を図る。進路ガイダンスの内容については、学年の要望を取り入れながら実施し、資料配付により情報提供の徹底を図る。
4 保健管理	清掃指導を徹底し、ゴミの分別や身の回りの整理・整頓に留意させる。	△ 生徒が清掃に積極的に取り組むように指導できたと回答した教職員が90%強いた。また、生徒側も90%弱いた。数字の上では目標を達成しているが、清掃に対する生徒の意識の高さはやや疑問である。しかし、家庭での整理・整頓は、昨年と比べ、保護者の評価は目標指数にはやや及ばないもののかなり、上昇したことは評価できる。	自分の身の回りの整理・整頓をしっかりする習慣を身に付けさせたい。今回は、家庭での保護者の評価が高かった。このことを契機に、「やればできる」という自信を生徒に持たせ、それを、学校での清掃という「公の場」の美化意識向上につなげていく。
5 開かれた 学校づくり	PTA活動(総会・各部の活動)をより充実させ、活性化させる。	○ 保護者の満足度は目標に達しており、教員・生徒の取組・成果指数も目標に近い結果が得られた。配布物を親にほとんど渡さない生徒が少し見受けられる。	教職員全員が、保護者とのより良い連携に努め、PTA活動への参加の働きかけを強める。配布物を渡さない生徒への指導を行う。
	保護者に学校の教育活動を積極的に広報する。	○ PTA機関誌「商魂」は広報紙としての機能を十分果たしていると思われる。	これまで同様、保護者に満足のいく機関誌作りに努めたい。
6 図書指導	「朝の一斉読書週間」を、年5回実施する。	△ 「朝の一斉読書」は目標指数を達成している。読書をする生徒は前年度より増えてきているが目標指数に達していない。今後、より一層の読書習慣を促していきたい。	生徒や教員の「お勧め本」を積極的に広報し、図書室を身近なものにする。あらゆる機会をとらえ読書の必要性を指導する。
7 資格取得 の奨励	課題・補習などを併せた適切な進捗計画により、各科目における目標資格級の取得率向上を目指す。	○ 資格取得に対する教師の目標指数は、前年度よりわずかながら高くなり、成果を上げることができた。また、生徒の資格取得に対する満足度は前年度よりも5%近く増加しており一定の成果を上げることができたと考える。	生徒の課題に対する取り組みが、目標指数である75%を超えているものの、前年度より3%近く減少しており、次年度以降、提出状況を向上させる為の効果的な指導法を検討していく必要があると考える。